



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第45期第2号

2025年9月5日
発行者:小泉基



関係は変わりうる

小泉 基

この夏、あからさまに外国人排斥を謳う政党が選挙で大きく得票を伸ばしました。直接外国人と出会ったことのない人たちが、ネット上で不安をかき立てられ、排斥感情を強めているのだとしたら、わたしたちの教会・社会にもやはり課題があります。

わたしたちの教区は大きな教区ではありませんから、たとえ大きなことであっても、あれもこれもたくさんのことが出来るわけではありません。それでも、わたしたちの教会がどのような教会であるのかということを示すために、大切にしているいくつかの小さなこだわりもあります。そのひとつが、北海道外キ連とのかかわりです。正式には、外国人住民基本法の制定を求める北海道キリスト教連絡会といいますが、1980年代以降、当初は在日韓国・朝鮮人の人権をめぐる、現在では難民・移民などすべての外国人が暮らしやすい社会の創造を願いながら活動を続けていて、わたしたちの教区も、ささやかながら賛同団体としてこの取り組みに参加しています。

さて、この北海道外キ連が1年でもっとも大切にしている活動が、毎年行っている夏期キャラバンです。今年は8月18-19日の2日間にわたって函館の湯川カトリック教会で行われ、ルーテル教会からも数名の参加がありました。わたしは葬儀のために2日目のフィールドワークしか参加出来なかったのですが、大雨の中、函館に残る戦争の傷跡をたどりました。戦後80年、残された建造物等は見えにくくなって

いきますが、YWCAが作成された函館ピースマップをたよりに、憲兵隊に連行されて獄死した函館聖教会小山宗佑牧師の足跡や、全国に4箇所しかなかった欧米人捕虜の収容所跡、そしてその収容所の建物を移築保存しておられる永全寺さんなどを訪ねました。永全寺が、その建物内に十字架をイメージした祈念塔を建立されたとき、元捕虜であった英国の方が来函され、「今まで日本は嫌いな国であったが、好きな国になった」と語られたのだと伺いました。わたしたちは、過去を振り返ることで、今の関係を変えていくことが出来るのだと改めて思われました。

ルーテル教会にも、外国にルーツをもつ牧師さんが何人もおられます。「あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しなさい」(19:34)、というレビ記の教えをひもとくまでもなく、移住者として日本社会で暮らす方々との共生社会を望みて、これからも共にあゆんでいきたいと思います。



各教会の近況報告

【札幌教会】

【能登被災地支援チャリティーコンサート】

小泉牧師が今年の2月に能登の被災地を訪問したあと、それを知って真っ先に「チャリティーコンサートをやしましょう!」と声をかけて下さったのが、めばえ幼稚園卒園のプコのジャズベース奏者、金澤英明さんでした。この訪問では、昨年1月の能登地震、同年9月の豪雨水害の復旧作業が進まない中での、能登のひとたちの「見棄てられ感」が大きい、と感じられたことでした。忘れずに応援している人たちがいる、ということを感じたいと願っていただけだったので、すぐに話がまとまりました。5月25日(日)の当日は、札幌礼拝堂が60名を超える来会者でいっぱいになる中、金澤さんとオルガン演奏の中島弘恵さんの息のあった演奏が披露され、この日のためにティッシュケースを手作りして献品・販売して下さる奉仕者もあり、合計で94,872円の募金が捧げられました。ルーテル連帯献金を通して、町野町(まちのまち)の粟倉医院跡地にログハウスを建設する、ログキャビンプロジェクトのために用いられていきます。(小泉基)



【新札幌礼拝堂 前野紀子さん洗礼式】

6月8日(日)聖霊降臨祭に久しぶりの洗礼式が行われました。前野紀子さんは2024年の復活祭に初めて礼拝に出席されました。この年の2月にお連れ合いを見送られ、クリスチャンであるご長男ご夫妻からも「教会に行ってみては」とのお声掛けもあり、町内活動で一緒だった出口さんが教会に通っていることを思い出し、この日、連れ立って来会されました。以来、ほぼ欠かさず礼拝に出席されて、納骨を終えたあたりから洗礼に向けての準備をはじめられました。折に触れ「自分の勝手な思いや考えでちゃんと理解できていないかもしれ

【めばえ幼稚園の新体制】

めばえ幼稚園を運営しているのは、(学)札幌ルター学園です。この法人の理事長が、この6月に交代になりました。長く法人を導いてくださった佐藤俊夫さん(札幌礼拝堂)から運営を引き継いだのは、これまで医療や国際協力の分野で力強いお働きを続けて来られた檜戸健次郎さん(新札幌礼拝堂)です。また、理事・評議員の構成も大幅に若返り、小泉牧師は常任理事として運営を支えることになりました。夏休みが終わり、園では新しい学期が始まっています。また、すでに来年度の募集のために、新しいリーフレットの作成やウェブサイトのリニューアルにも取り組んでいるところです。インスタグラムの運用がはじまっていますので、いつでも園の様子を楽しんでいただくことができます。検索して、先生方の奮闘の応援をよろしくお願ひします。

(小泉基)



ない」と口にされていましたが「すべてを理解してなんて考えていると、いつまでたっても洗礼は受けられないよ。洗礼がスタートだよ」とのご子息のアドバイスに後押しされてこの日を迎えられるました。受洗後、前野さんは用意されていた「イエス・キリストを個人的に、罪からの救い主として受け入れ、キリストに従い共に生きていきたいという告白と願ひのみ、イエス・キリストとの親しい関係を意識した生活をスタートさせる、教会の一員になること。」というメッセージを披露されました。居合わせた一同は祝福の拍手で応えました。(岡田薫)

【こんにちはウィーク】

今年の6月21.22日の主日、札幌教会ではちょっと聞き慣れない名前の行事が行われました。ご存知のように札幌教会には3つの礼拝堂があります。かつては、合同礼拝などが行われた時代もありましたが、高齢化などもあって、なかなか礼拝堂を越えた交わりの機会が難しくなっていました。そこで考案されたのが「こんにちはウィーク」です。この土日は、いつもと違う礼拝堂の礼拝に参加してみよう、という呼びかけでした。もちろん全員ではありません。「行ける人」で、かつ「行きたい人」が、いつもと違う礼拝堂の礼拝にでかけ、ともに礼拝を守り、また交わりの時を持つ、という主旨です。自由に参加する企画でしたが、蓋を開けてみるとやや偏りはあったものの、19名の人たちが、いつもと違った礼拝堂の礼拝に参加されました。特に新札幌礼拝堂では、会堂一杯に集った仲間たちと共に捧げる賛美の歌声が響き渡りました。礼拝後のお茶会では、いつも以上の賑やかさ。予定されていたエンキリディオンの学びも断念か？と思いきや「学びに期待してやってきた」との声に励まされ、一息ついたところで学びの時間。その後、再び交流の時間を愉しみました。(小泉基・岡田薫)



↑5月のオリーブの集い こんにちはウィーク↓



【札幌礼拝堂 オリーブの集い】

戦前からの長い歴史を持つ札幌教会の婦人会は、昨年来、新しい形での活動の継続を模索してきました。会員の減少と高齢化、コロナによる活動の停滞、愛餐再開の希望、男女による活動の区分けへの疑問、聖書の学びへの期待など、さまざまな期待や要望を調整しながら、毎月1回第4主日の礼拝後に、愛餐と聖書の学びをともにする、男女の区分けを行わない新しい活動へと衣替えすることになったのでした。新名称は、札幌礼拝堂のみんなの会で名称案を出し合ったうえで人気投票を行い、「オリーブの集い」という素敵な名前が与えられました。6月には、ペトロの信仰告白について学んだ後、みんなで手作りハンバーガーをいただきました。都合で7.8月は夏休みですが、9月にはBBQを楽しむ計画です。(小泉基)



【夜の教会学校】

札幌教会の夏といえば、夜の教会学校でしょ！というくらい人気の恒例行事が、7月27日(日)に行われました。前日までの雨もあがり、子ども約80名、大人約60名、スタッフ27名、総勢150名以上の大賑わいでした。今年は、“つくってあそぼう””手作りはんこ“”ベビーカステラ“という素敵な新コーナーが加わり、後半には花火もあり、園庭は華やかでした。何でも10円！に子どもたちは大事に10円玉を握りしめ、お店でお買い物をしました。自分の手で作る、一つくさいと言ってみる、食べ物を大切にもつ、笑う、驚く、色々な体験ができたことでしょう。そして、お父さんとお母さん、家族みんなが集うことの心地よさを感じることができたかも！教会員も普段、あまり会えない幼稚園やCSの子供たちとふれあって、元気を沢山もらいました。きっとずっと、園庭のどこかでイエス様も微笑んでおられたと思います。みんながここに招かれていることを感じた、素敵な真夏の夜でした。(松島直子)



夜の教会学校①



夜の教会学校②

【難民・移民のなかまのいのち協働基金(略称:難民いのち基金)】

札幌教会の役員会では、6月に能登の被災地支援を呼びかけた後、8月には難民・移民のなかまのいのち協働基金への協力を呼び掛けています。難民いのち基金では、今期は特に子ども支援に力を入れています。日本にはさまざまな事情よって、日本に逃れてきた難民申請中の方や在留資格を失い不安定な状況下で、衣食住などの生活者としての最低限の権利や、医療・教育・労働

の権利も保障されない人たちがおられます。日本で育ち、夢や希望を持って生きようとしていても在留資格の有無で居てはいけないような存在にされている子どもたちがいることを多くの方に知っていただき、ご理解・ご支援いただけるように広報用のステッカーも作りました。ご希望の方はご連絡ください。(岡田薫)

【函館教会】

6月1日墓前礼拝と荒木眞実子姉の納骨式が行われ、眞実子姉の甥御さんも喪主として参列し、教会員と共に祈りを捧げました。「私は創世記に書かれている天地創造について全く疑う余地はありません！」と力強く仰った信仰告白が印象深いです。常に神様を真っ直ぐ仰ぎみていた眞実子姉は神様のもとに、そして一足先に行かれたご主人、章兄と共に御国で和やかに過ごしていることを確信しています。

7月7日七夕の“ろうそくもらい”にて子どもたちへみ言葉カードとお菓子配りを今年も行いました。そして7月20日から8月10日まで「遺愛生歓迎礼拝」として礼拝をまもりました。今回は「聖書のしくじり先生」と題して、旧約聖書からアダムとイブ、カインやイサク、エサウとヤコブ、そしてダ

ビデ、新約聖書からペトロとパウロ、それぞれのしくじりから罪と十字架がどれだけ偉大な恵みであるか、失敗を繰り返す人間に対しての神様の赦しと救い、愛について、河田牧師よりお話がありました。お菓子目

的であっても、夏休みの宿題が目的であっても、神様の言葉が成長の糧となって生きるうえで励みになり、神様の愛が広がることを心より祈っています。



7月24日の遺愛生歓迎礼拝ではゴスペルクワイアMSCが賛美奉仕を致しました。MSCは結成20年目となり5月31日20周年記念ライブを開催。多くの方々が会場に足を運んで下さり、そして河田牧師から観客へメッセージをして頂きました。

MSCが函館教会と関わりを持つきっかけになったのも遺愛生歓迎礼拝でした。それまでは教会との関りはほとんどなく“歌が好き”というだけで歌っていましたが、函館教会を練習の場としてから歴代の牧師先生から歌詞、つまりはみ言葉について、神様についてお話して頂き、神様の愛と賛美する喜びを学びました。教会に育てて頂き、祝福を受けたクワイアになれたと思います。この関わりに導いて下さったのは神様ですが、ソベリ牧師と教会員のご理解、ご協力、特に故増田兄の

働きがとても大きかったと改めて思います。これまでの歩みに感謝し、今後も活動していきたいと思ひます。

これから講壇交換、9月にはバザーが予定されています。一つ一つを神様に委ね、豊かな恵みの中で教会活動が成されることをお祈りしています。

(岩崎明子)



MSCによる遺愛生歓迎礼拝での賛美の奉仕

【恵み野教会】

【ペンテコステ～花の日礼拝】

6月の恵み野の街は、春の息吹に与った庭の花々が一斉に花開き、美しい季節になります。今年のペンテコステの礼拝も、それぞれのお庭に咲いた花々を持ち寄っての花の日の礼拝として与りました。この日の礼拝後、ペンテコステの宣教の恵みと、花々のお裾分けを携えて、河田牧師は初めて車を運転して函館教会の礼拝へと向かいました。次々と咲く花々のように、宣教の働きがこの恵み野の地から豊かに広がっていくことを願い祈ります。



←花の日礼拝



【シンフォニエッタ サマーコンサート】

7月19日(土)の礼拝後は、サマーコンサートでした。札幌シンフォニエッタのメンバーが来て下さり、コロナ禍以降初めての開催となりました。札幌シンフォニエッタさんとは、1986年に会堂が建てられた際に記念コンサートをしていただいからずっと良い関係が続いています。今回は久しぶりの開催ということもあり予想より多くの方にご来場いただきました。

シンフォニエッタのメンバーの方々にご来場くださった皆様に感謝いたします。

【夏季特別礼拝】

7月19日(土)~8月9日(土)には4週にわたって「聖書のしくじり先生一俺みたいでもいい!!」と題して特別礼拝が持たれました。さまざまな聖書の失敗談から、神様の赦しの大きさに気づいていくことができ、新しい方々にもわかりやすく届いたことと思ひます。

【教会の往来】

約1年前 初めて来会された若い母子が、この6月にご主人の転勤で仙台に移られました。来られた時は乳飲児だった赤ちゃんは、立って歩くようになり、その成長をともに喜ぶことができ感謝でした。新しい歩みの祝福をともに祈り送り出しました。

また、教会では新しい方がポツポツと来会され、いつの間にかお交わりに加えられています。その方々に神様の良き福音が伝えられ、洗礼の恵みに与ることができますように、祈りお支えしていきたいと願っています。

(藤井真理恵)

【帯広教会】

近況を時系列に沿って報告します。

5月、浦幌の杉江さんのご厚意で、所有されている山林で山菜取りを楽ませていただきました。杉江さんから広い山林の管理のお話や山菜の蕨、ふき、ぜんまい、うど、きれいな小川に生えているからし菜、クレソンの取り方から食べ方まで、色々と教えていただきました。山の恵みに感謝し心豊かなひとときとなりました。また、以前からの懸案事項であった教会看板と掲示板の工事が行われました。併せて、池田教会から移設したスタンドグラスがよく見えるようにと樹木の剪定と照明設置工事も行われました。おかげで夜間には、スタンドグラスがとても綺麗に見えます。

ここに教会があります、と多くの方に気づいてもらい来ていただけることを願うばかりです。6月には、例年取り組んでいる「わかちあいプロジェクト古着支援」や「アトウトウミヤンマー支援」(折たたみ傘等の支援)を呼びかけ、微力ながら協力させていただきました。

7月、例年の猛暑の影響もあり、教会集会室と牧師館にエアコンを設置いたしました。近隣教会からの中古品譲渡と資格保持者による施工・設置によって本格的に暑くなる前に設置できて良かったです。20日には、当教会駐車場で町内会の夏祭りが行われました。52人の参加でその内12人はお子さんでした。若い家庭が多い町内会でこれからも交流を続けていけたらと願っています。8月1日(金)に行われた、有泉芳史さんのチャリティ・コンサートには、町内の方も含めて30名を超えるお客様を迎えチェロの演奏と軽快なトークを2時間堪能することができました。

現在、有志が久しぶりに手仕事を再開し、恵み野教会のバザーにと頑張っています。そして、池田、釧路の会員の訪問には牧師と共に有志が代わり合って何う事が出来るようになり、神様との交わり、学びの大切な時を過ごしています。これからも会員同士の交わりを大切に、それを力に外への働き、帯広の宣教へとつなげていきたいと願っています。

(有働あけみ)



←明かりの映える
夜の帯広教会



有泉さんのチェロによる
チャリティ・コンサート↓

恵みの経験の分かち合い

【春の全国teensキャンプ・ルーテルこどもキャンプ】

3月26日～28日、春の全国TEENSキャンプに参加しました。場所は宮崎県えびの市です。一番印象に残っているのは、農業体験で鶏の卵をとったことです。産みたての卵はとてもおいしかったです。近くの畑でとれたほうれん草も、スーパーで買うものの何倍もおいしかったです。こうやって、神様が私たちに「日ごとの糧」を与えて下さっているのだなあ実感しました。3日目に私は高熱を出してしまい、迷惑をかけてしまいましたが、先生達、スタッフの方々、友達がやさしく声をかけて助けてくれたことがまた、思い出に残っています。

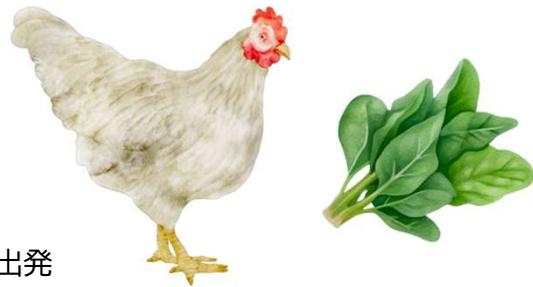


↑たまごの採収



←出発

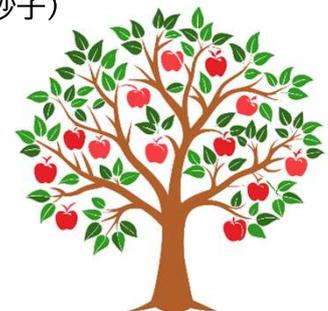
8月5日～7日は、東京教会でルーテルこどもキャンプがありました。こどもキャンプの参加は2回目です。今回は、「クック諸島」のことばや、遊びや、踊りなどについて学びました。クック諸島の、きれいな空や海、大自然をつくられた神様、私たち人間をつくり愛して下さっている神様に感謝します。知らない国のことを知ることによって差別や戦争がなくなると思います。函館教会では、子どもは私1人ですが、キャンプに行くのとたくさんの友達に会えるのでうれしいです。次回もまた参加したいです。お祈りと支援をありがとうございました。（函館教会 木下結愛）



【ルーテル幼保 夏の研修会】

8月8日(金)、9日(土)札幌パークホテルにて、日本福音ルーテル教会幼稚園保育園連合会、夏の研修会が行われました。全国から18園、70名の教師たちが、ここ北の大地に集められ共に学び合うことができたことに感謝でした。研修1日目は、「わたしの保育」と題して、りんごの木代表の柴田愛子先生が講演くださいました。柴田先生が若き日に田園調布幼稚園時代に出会った太郎ちゃんとのエピソードを聞き、今の昔も変わらない「あるある問題」に親近感を抱きました。「正しい教育とは何かと問う時、子どもをどう育てようかではなく、子どもがどう育ちたいのかを考えることが大切である」とお話しくださり、子どもが育とうとするチャンスをわたしたち保育者があれこれ言わずに見守り待つことの大切さを感じました。77歳の柴田先生は2時間の講演時間を休憩せずに、またレ

ジメやパワーポイント一切無しで語る姿に、まさに「わたしの保育」を感じる講演でした。研修2日目は、「インクルーシブな保育で共生社会の担い手を育む～子どもの視点で保育を見なおしながら～」と題して国立特別支援教育総合研究所センター長久保山茂樹先生が講演くださいました。だれもがみんな神様から与えられた一人ひとりで幸せに生きる権利があると、そしてだれもが生まれてきて良かったと思える人生を送れたらと思いました。（めばえ幼稚園 相原妙子）





夏の研修会



めばえ幼稚園の外観

【サウスカロライナシノッド訪問】

6月11日～16日の日程でアメリカ福音ルーテル教会のサウスカロライナシノッド(教区)を訪問してまいりました。現地ではアセンブリー(総会)の傍聴、宣教200年式典への出席、日本と関係の深い教会への訪問、観光などをしてまいりました。詳しくはるうてる8月号にも報告しておりますので、ぜひお読みください。

特に印象的であったのは、総会の開会礼拝で4,5曲ほどのゴスペルソングが歌われたことです。ゴスペルクワイアMSCと深い関わりのある函館教会の牧師としては、彼らにも全国総会などで歌ってもらいたいなと感じた次第です。

教会員の宣教への熱心さにも心を打たれました。総会で副議長選挙が行われていましたが、候補者から宣教への思いをスピーチを聞いて、真剣に考えて投票していく様子からは学ぶべきところがあるように感じました。

学びの多いアメリカ訪問となりました。教区、教会からのご支援と送り出してくださった皆様の祈りに感謝します。宣教への熱を掻き立てられつつ、おいしい食べ物や普段と違う環境での生活など羽を伸ばすこともできました。

今後も北海道からまた、送り出されることもあるかもしれませんし、あちらから訪問団が来られることもあるかもしれません。お互いに祈り、励ましあって宣教を続けていくよい交わりを保っていきたくと存じます。

(恵み野・函館教会 河田礼生)



シノッドアセンブリー

教勢動向

(2025年5月20日～2025年8月)

札幌教会 受洗・堅信:前野紀子さん(6/8)
召天:松岡淳二さん(6/3) 原田賀代子さん(8/16)